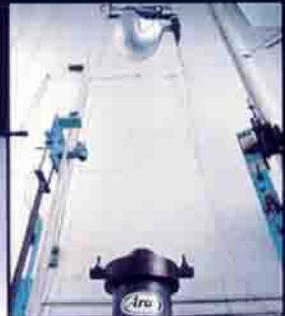


柔や
な帽体だつたら！

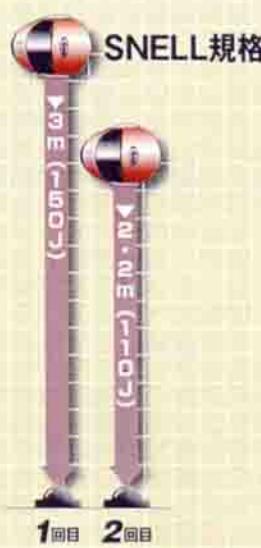
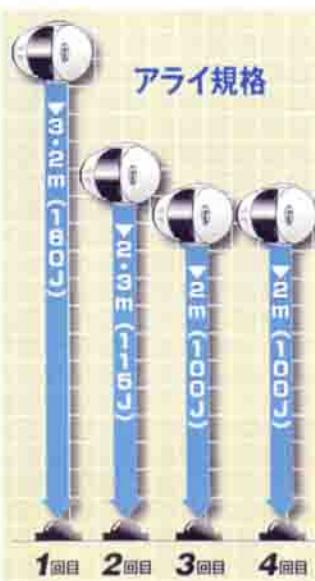


上の写真は、テストコースで、ワークスライダーが転倒した際に、マシンが上から覆い被さり、ヘルメットのスゾから5センチ位の箇所に、ステップが突き刺さったものです。もし、この製品が剛性の高いスネル規格品でなかつたら、あるいは、規格ぎりぎりで、スゾの方を薄くして、軽量化を計っていたものであつたらと考へると、ぞつとします。



アライでは、たた単に規格を通すだけなく、このような実際の転倒例を検証して、独自に社内規格を設けています。そのひとつがアライ規格です。この安全基準を満たしながらも、軽量化を探究していくことが、アライの基本姿勢です。

ヘルメットは、自分の身を守るもの。自分の目で見て、触って、規格と剛性をしっかり確認して、選ぶことをお勧めします。



アライ規格とは

スネル規格でも厳しい、半球型アンビルに対する衝撃吸収性試験での落下高さを1回目3m20cm(160ジュール)、2回目2m30cm(115ジュール)、3回目、4回目2m(100ジュール)とし、そのすべてをクリアした製品のみにスネルラベルを貼るという、アライ独自の社内規格。ちなみにスネル規格では、1回目3m(150ジュール)、2回目2m20cm(110ジュール)の落下高さでパスすることとなっている。

2通りの軽量化

規格レベルを高い目標に設定し、材料を厳選し技術を結集した「技術力により成し遂げた軽量化」と、規格レベルを変更し、目標を下げることにより、「帽体を柔にして得られた軽量化」の2種類がある。

90.1%

フルフェイスでは、28,000円のOMNI-Rから、オープンフェイスでも、SZシリーズはすべて、スネル規格品であるので、カタログモデルの99年度の出荷実績では、アライは90.1%がスネル規格品であった。



スネル規格品のラベル